

施策名：5-1-2 生活の質を高める文化・芸術活動の振興

担当部：地域振興部

検証項目	検証結果					
	検証委員挙手数			市民評価者		
I 施策の実現に向けた取組について	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	そう思う	どちらともいえない	そう思わない
課題がしっかりと捉えられているか	0	1	3	1	2	3
取組の方向性は合っているか	0	2	2	1	2	3
取組成果が、施策実現や成果指標の達成に効果があるか	0	1	3	0	3	3
II 施策の有効性について	有効である		有効ではない		有効ではない	
政策目標の達成に向けた施策の有効性	0		4		4	

1 検証委員からの主な指摘事項

- 政策に掲げる生きがいがづくりとしての「文化芸術活動」の幅広いジャンルと捉え方と、担当課の認識のズレが大きい。まず基本的認識の適正化が必要
- すでに文化に親しんでいる人に対しては意識が広がっていくが、新たな取組を考えていく必要があるのでは？
- 従来思考プロセスからの脱皮が必要
- 政策目標の成果指標である文化芸術活動実施率について、継続的・定期的にアンケートを行うなどの計画がないことはNG。成果指標をきちんと設定し、経年変化を把握しないと施策の有効性を評価できない
- 現在の状態を維持している状態で終わっているのではないか。

<担当部 対応方針>

- ・指摘全般に共通しており、課題となっていることは、文化の捉え方や、文化の目指す方向性、プロセス等について整理する必要があるのではないかとということである。
- ・現在、新文化ホールの基本構想・基本計画策定を進めており、その中で施設のみに留まらず、本市の文化のあり方や目指す方向性等についても、検討を進めており整理をしていく。
- ・具体的には政策目標の成果指標について、再度文化振興の意義を考え、適切な指標となるよう検討をおこなう。

2 施策改善案など（検証委員、市民評価者が記載したコメントのとりまとめ）

(1) 検証委員

- ・文化振興にかかる「推進員」は文化協会構成代表者と定義すること自体が、狭義に捉えているので捉え直しが必要。そのことにより取組み内容を変えていく。
- ・福知山ファンクラブをもっと活用し、交流の場を広げる工夫が必要
- ・福知山市の文化芸術の特色とは何なのか？明確化が必要

<担当部 対応方針>

- ・現在、新文化ホールの基本構想・基本計画策定を進めており、その中で施設のみに留まらず、本市の文化のあり方や目指す方向性等について、検討しており、整理をしていく。

(2) 市民評価者

- ・施設老朽化は一つの要因だが、それよりもそういった活用をするグループが少ない。活動に関わる機会の少なさが課題では。
- ・多くの市民が文化芸術活動に参加する機会を持てる取組が見えない。
- ・若年層の文化への興味を持ってもらうために SNS など活用して発信してほしい
- ・色々な教室に参加したいので、ここでこんなことをしていますってことを知りたい
- ・新規の人を呼び込むために、見て触って楽しめる美術展など、楽しめるイベントとして芸術に触れてもらい、その上で興味を持ってもらうことなどはできませんか。例えばプロジェクションマッピング等は毎年人気があるものと思います。それと城だけでなく、福知山音頭等、踊り等と組み合わせ興味を持ってもらうなど。
- ・施設ありきから、振興のために必要なものは？と転換してみてもは。福知山独自の歴史文化の伝承（治水、生活衣館）等活用の充実。
- ・若い方に文化芸術に関心をもってもらえることが大切。文化に触れる施設を教えてほしい。参加したい方にどのようなことをしたら来てもらえるか、増えるのかを文化協会と色々考えてほしい

<担当部 対応方針>

- ・文化施設で、各自特色をもった企画展等を実施しており、今後はより市民に周知がいきわたるよう広報活動（特に SNS を活用した）に力を入れていく。
- ・本市の文化施設を周遊してもらうよう、一体となった企画等を今後検討し、市内・外問わず多くの方に本市の文化に触れてもらう機会を創出する。